

わたしたちとブラジルの子どもたち

学校所在府県：兵庫県
 学校名：宝塚市立美座小学校
 名前：山口 敦司
 実践教科：生活科、道徳（1、2年生）、
 総合（6年生）

指導時数：4時間（1年生）、1時間（2年生）、
 1時間（6年生）
 対象学年・対象人数：美座小学校
 1年生 63人（2クラス）、
 2年生 57人（2クラス）、
 6年生 55人（2クラス）

1. 教師海外研修を通して感じたこと

今回の研修を通して得たことは、たくさんあるが、その中でも特に下記の二点が心に残っている。

まず一つ目は、参加された先生方と見たこと感じたことを共有できたことである。一日の終わりに交流会が持たれ、その日の出来事や感じたこと、そして、自分の考えを話し合う。個々の先生により、感じ方・考え方に違いがあり、自分にはない視点で物事を見聞きしている意見には感動を覚えたこともあった。

二つ目は、日本から地球の裏側であるブラジルに移住をされた日系人の方々の話を伺えたことである。様々な理由でブラジルに渡られ、それぞれ一人ひとりに「生きる」というための歴史があり、想像を絶する苦労の連続であった。しかし、私がお会いできた人々は、みんな笑顔が素敵で心が温かく、人としての偉大さを感じた。と、共に、自分自身も教師として、子どもたちの前に立つ一人の人間として、自分の生き様をしっかりと見せられるようになりたいと強く感じた。

今後、自分自身が学んだ多くのことを子どもたちに伝え、子どもたち自身も世界に目を向け、夢や希望が広がるような「きっかけづくり」をしていきたい。そして、子どもたちと共に、世界に目を向けていきたいと考えた。また、自分自身も教師としてさらなる飛躍をしていくための学びの多い研修であった。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

子どもたちには、周りにいる友だちに対して、見た目や考え方が違って、相手を理解し、仲間として学校生活を送って欲しいと願っている。そのため、日本から遠く離れ、食べ物や生活習慣の違うブラジルに触れ、違いや共通点を見つけることで、自分たちの生活を振り返り、何が大切かを考えるきっかけにしたい。

小学1年生はとても素直な反応をし、物事を純粋に受け止めてくれる。その純粋さを大切にしながら、多くの違いに共感できる心を育てていきたいと考えカリキュラムを設定した。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目（1、2年生） ブラジルをしよう。 *ブラジルに関する基礎を学ぶ。ブラジルに興味を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルがどこにあるかを知る。 ●クイズを通して、ブラジルがどんな国かを知る。 ●DVDを見て、日本とのつながりがあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーポイント ●クイズ（面積、人口、日本のもの、有名なもの、学校、食べ物等） ●DVD「世界なぜそこに日本人！？（小長野さん）」

<p>2 時限目 ブラジルの たべものをしよう。</p> <p>*ブラジルの食べ物を知り、 ブラジルから日本に届い ているものが身近にある ことを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の食べ物と比べる。 ●「食べ物クイズ」においかけをかけるようにした状態で、 何かを当てる。(カカオ) ●胡椒の実物を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーポイント ●モノランゲージ (カカオ)
<p>3 時限目 ブラジルの子どもたち のことを知ろう。</p> <p>*ブラジルの子たちもみんな と同じように勉強し、 夢を持っていることを知 り、違いや共通点を見つ ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学校の外側からの写真を比べる。(美座小学校とブラジルの越知学園) ●一年生の授業の写真を見て、違いや共通点を見つける。 ●自分たちの夢とブラジルの子どもたちの夢を比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーポイント ●フォトランゲージ (ブラジルの一年生の授業の写真) ●アンケート結果 (夢)
<p>4 時限目 一ばんおどろいたこと をまとめよう。</p> <p>*一番驚いたことを絵と文 でまとめることで、自分 の中のブラジルを整理し、 友だちに伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まだ見ていない写真や映像を見る。 ●これまで学んだことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真(公園の遊具、アマゾンバツタ、手塚治の本、ドラゴンボール、ポケモン) ●映像(アマゾン川、なわとび、サッカー)
<p>他学年での授業 (6年生) 「日本とブラジルのつ ながりを知ろう」</p> <p>*ブラジルでの日本人の活 躍を知り、日本とブラジ ルのつながりを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●クイズ形式で、ブラジルの基礎を知る。 ●ビデオを通して、小長野さんや日系人の生き様や苦労を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーポイント ●クイズ ●DVD「世界なせそこに日本人!? (小長野さん)」

3. 授業の詳細

1 時限目：「ブラジルをしよう」

ねらい…ブラジルに関する基礎を学ぶ。
ブラジルに興味を持つ。

◆内容◆

- ① ブラジルの位置を確認する。
- ② ブラジルについてのクイズをする。
- ③ DVDを見る。



教室前の様子



教室前の掲示

！ココがポイント

1、2年生、120名の一斉授業だったので、あらかじめ、廊下に写真、地図（ブラジルで購入）、クイズを掲示しておいたり、ピラニアの剥製、ピラルクの鱗、ブラジル国旗、地球儀を置いたりするなど、毎日眺められる環境を作った。

児童の反応

- ▶ ブラジルに、鳥居などに日本のものがあることにびっくりしていた。
- ▶ アマゾン川でピラニアにおそわれなかったのか？日本人は人気があるのか？など質問があった。
- ▶ 校外学習で行く予定の水族園で、アマゾン川にいる魚を見られることを知って喜んでいました。

！ココがポイント

ブラジルの食べ物の写真を提示し、日本でも似たものがないか質問することで、親近感を持てるように心がけた。

◆所感◆ 目新しいことに、とても興味を持っている。時差があることを初めて知って驚いていた。廊下の写真を見たり地球儀を触ったり、楽しみながらブラジルや世界のことを知ろうとしている児童がたくさんいて嬉しく思った。

2 時限目：「ブラジルの食べ物」

ねらい…ブラジルの食べ物を知り、ブラジルから日本に届いているものが身近にあることを知る。

◆内容◆

- ① 日本の食べ物とブラジルの食べ物を比べる。
- ② 中身を隠したものを予想する。（カカオ）
- ③ カカオ、胡椒の実物を見る。

児童の反応

- ▶ カレーを食べないことに驚いていた。日本と似たものを想像して、違う食べ物だけど、似たようなものを食べていることに気付いていた。

児童の感想

- ▶ わたしは、はじめてカカオをさわったのでびっくりしました。こんなにちいさかったのかなとおもいました。
- ▶ ブラジルのたべものをみてたべたくなりました。
- ▶ チョコレートはカカオからできていることをしらなかったから、とてもびっくりしました。ほかにいろいろしらないことをしりたいです。



ブラジルの一年生の授業の様子



ブラジルの一年生の授業の写真から、
違いや共通点を見つける様子

3 時限目：「ブラジルの子どもたちのことを知ろう。」

ねらい…ブラジルの子たちもみんなと同じように勉強し、夢を持っていることを
知り、違いや共通点を見つける。

◆内容◆

- ① ブラジルの子たちの学校の様子を見て、違いや共通点を見つける。
- ② ブラジルの子たちの夢を知る。
- ③ わたしたちとブラジルの子たちとの違い、共通点について考える。

ブラジルのこたちのゆめ

- にほんにいきたい。
- つきにいきたい。
- ルナウドとあいたい。
- さっか
- じょゆう
- ゆきをみる
- じゅうい
- ヨーロッパりょこう
- おかねもち
- おいしゃさん
- かがくしゃ
- ビジネスマン
- アイドル
- ディズニーランドに行く
- せかいいっしゅう

ブラジルの子たちの夢

児童の感想

- ▶ がっこうにくつをはいてくるひとがいるとはおもいませんでした。
- ▶ ふではことかランドセルがちがうとおもいました。
- ▶ わたしはブラジルのこどもたちのゆめがにているなとおもいました。たとえば、かがくしゃになりたいひとが、わたしのクラスにいました。ブラジルのこも、かがくしゃになりたいなとおもっていて、いっしょなことがわかっておもしろかったです。
- ▶ ブラジルのがっこうのいりぐちはちいさすぎてびっくりしました。
- ▶ わたしはブラジルがすきです。なぜがというと、ブラジルにいきたいからです。わたしは、はじめてみたとき、こんならしをしてるんだとおもいました。

◆所感◆ ブラジルの子どもたちが教室で勉強している写真から違いや共通点を見つける際には、本当にたくさんのことを見つけ、頭の柔軟さに驚いた。子どもたちは、一生懸命ブラジルのことについて考えていた。

4 時限目：「一ばんおどろいたことをまとめよう。」

ねらい…一番驚いたことを絵と文でまとめることで、自分の中のブラジルを整理し、友だちに伝える。

◆内容◆

- ① これまでブラジルのことで、学んだことを思い出す。
- ② 絵と文でまとめる。
- ③ 交流をする。

◆所感◆ 子どもたちの心に残ったものは様々だったが、地球の裏側にあるブラジルに対して親近感を持たれたことが感じられた。



児童の絵

児童の感想

- ▶ なわとびができるんだ。日ほん人とおなじだなあ、きょうつうてんがあるんだ！とおもいました。がぞうをみて、なわとびをいっしょにしたいなとおもいました。
- ▶ ブラジルの子たちもいっしょで、サッカーをしているとおもうとすごいことだとおもいます。サッカーをいっしょにできたらいいなとおもいます！ブラジルにいつか行ってみたいです。ポルトガル語をおぼえたいです。ママもつれてブラジルにいきます。
- ▶ にほんとしゅぎょうがおなじでも、やることがおなじところもあるし、ないところもあってびっくりしました。

6年生での授業：「日本とブラジルのつながりを知ろう。」

ねらい…日本人の活躍を知り、日本とブラジルのつながりを知る。

◆内容◆

- ① クイズ形式で、ブラジルの基礎を知る。
- ② 小長野さんの生きてきた様子を知る。

◆所感◆ 自分の経験と結びつけ、日本がブラジルにいる人からどういう風に見られているのかに気付いていた。新たな視点から見ることで、現状を振り返り、当たり前のことが肯定的に捉えられるようになるのではないかと感じた。

児童の感想 (一部抜粋)

- ▶ 私は、アサイーという果物は知っているけど、食べたことはありません。でも、食べてみたいと思いました。それは、小長野さんの苦労を感じたからです。私には、アサイーを見つけ出せるほど強く大きい力は持っていません。しかし、私たち小学生でもできることがあるかもしれません。例えば、ぼ金をするなど、だれにだってできることがあります。そして、苦しんでいるのはブラジルだけではなく、世界にもしかしたらすぐ近くにいるのかもしれない。その人たちを支えられる優しい人になりたいです。
- ▶ 「ブラジル」の話を聞いて改めて、自分が平和な国にいて豊かな暮らしをしていることを感じました。小長野さんのように日本とつながっている、ブラジルとつながっていることは、大変なことだけど、すごいことだということを感じました。小さなつながりをきっかけに、日本が他の国から尊敬される、他の国を尊敬できる国でありたいなと思いました。
- ▶ 私が今回の授業で思ったのは、小長野さんみたいに、だれとでも共感することのできる優しさ、人から信頼されるということの大切さです。これからも世界が日本という国を信じてもらえるように一人ひとりが努力しないとないなと思いました。

4. 成果

低学年の子たちにとっては、日本を出発してからブラジルに到着するまでの時間を伝えるだけでも、世界の広さ感じていた。また、校外学習で水族園に行く機会があり、ピラニアの剥製やピラルクの鱗を触った後で、実物を見たことは、ブラジルの学習が子どもの心にも深く残ったと考える。

異文化に対する興味をもつきっかけを与えることで、多くの児童はもっと知りたいという気持ちを駆り立てられていた。外国に行ってみたいという声も聞こえ、夢が一つ広がったと感じた。また、学年で取り組めたことは、子どもの成長過程においての共通な土台づくりができ、大きな成果となった。

5. 課題

こちらが新しいものを提示すると、とても興味をもって反応する。しかし、学習の中で疑問がたくさん浮かび、質問が多方面に広がってしまう。そのため、子どもたちから出てきた疑問を整理し、明確にしながら学習を進めてきた。学習目的を定着させるには、全教科において、書く力やコミュニケーション能力を育てていくことが大切である。今回のように学習の目的を定着させるため、分かりやすく、的確に指導していくには、他教科に渡り書く力や思いを伝える力を定着させ、深めていく必要があると感じた。今後も教科書だけでなく、広い学びの学習計画を立て取り組んでいきたいと考えている。